

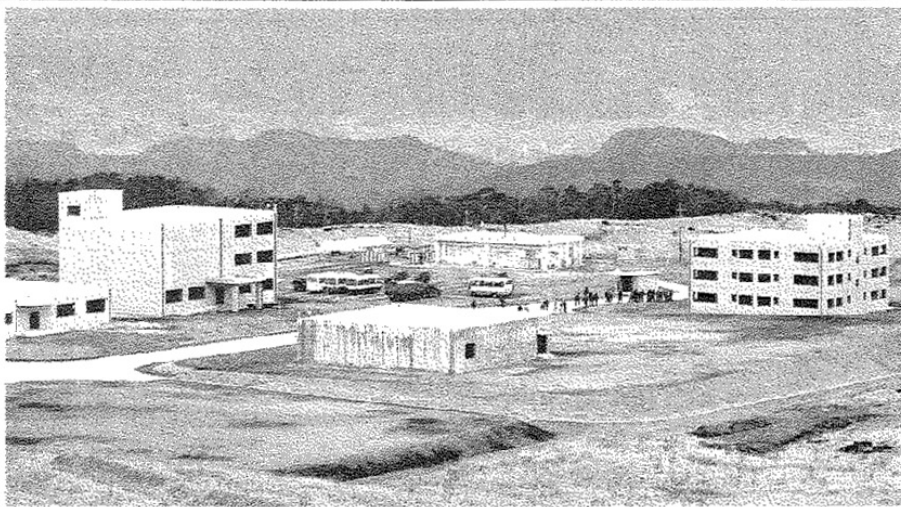
陸自霧島演習場

市街地訓練場が開所

九州初、対テロ戦想定

テロやゲリラを想定した実戦的な訓練をするため、陸上自衛隊霧島演習場(湧水町とえびの市)

に建設中だった市街地訓練場が完成、十六日、開所式があった。全国三番目、九州では初。四月以



マンシオンやテレビ局などに見立てた建物が立ち並び、陸上自衛隊の市街地訓練場。16日、えびの市

降に本格訓練を始める。北朝鮮工作船事件や米同時多発テロを踏まえ、外国などの特殊部隊上陸を想定、市街戦など多様な事態での攻撃や防御技術を身につける狙い。九州全域を管轄する西部方面隊によると、訓練場は敷地約四万七千平方

メートル。訓練センター棟のほか、マンシオンやテレビ局、銀行に見立てた鉄筋コンクリート製の訓練棟四棟が立つ。内部にはマンシオンの部屋や金庫室などを再現、ヘリコプターから屋上への降下訓練も実施する。訓練は、小隊(約三十

人)規模で実施し、隊員は最新の訓練用小銃などを装備。交戦中、隊員が装着したセンサーにレーザー光線が命中すると、「死亡」「重傷」などダメージが表示される。訓練センターでは交戦データや映像を収集、記録し、効果的に指導する。総事業費は約七億円。

開所式には、近隣の首長や西部方面隊の幹部ら約百人が出席。同方面隊の林直人総監は「訓練場を有効に使い、防衛首長に伴う任務の重さを認識し、いかなる任務にも瞬時に対応できるように錬成していきたい」とあいさつした。